

5月の園だより



こどもの日

若葉・若芽の萌え出る美しい季節を迎えています。

4月中には低気圧の北上と寒冷前線の通過で台風並みの強風が吹き荒れ、寺尾中央公園の桜のトンネルが1日のうちに若葉のトンネルに様変わりしてしまいました。

一方、寺尾中央公園内のチューリップ花壇では色とりどりの花が咲き揃い、坂すべりに興じる松の実の子を、正に首を長くして迎えてくれます。

友だちの存在に気付き、一緒になって夢中で遊ぶこどもたちの様子を見てみると、「心をひとつにする」ことの大切さを、外あそびからも自然に学び取ってくれていることが感じられ、第二の園庭「寺尾中央公園」を子どもたちの場としてまだまだ活用していきたいと思っています。

新年度を迎えて1か月。新入園の保護者様にも松の実の保育教育をご理解いただいている頃かと存じます。

松の実こども園には「親子で楽しむこども園」の他に5つの保育教育目標があります。その前に大切にしていることがあります。

それは、こどもはひとりひとりもれなくどの子も総ての人々に可愛がられ慈しみ育てられる権利を持って生を受けている——という子どもの基本的人権を尊重する保育教育です。

可愛がられ、褒められることを素直に喜び、それを嬉しいと思ひ、幸せを実感できる毎日があるからこそ、子どもは人を信じ、人を愛することを学び、すすくと育って行くのだと思っています。

握手をしたり、タッチをしたり、時におんぶやだっここの総てと、言葉や表情の優しさに含まれる心からの愛を、毎日毎日繰り返し何度でも伝えてあげたい松の実です。

大人たちは、子どもが何ができるとか、人より優れていることを誇るよりも、子どもが愛され、可愛がられていることを素直に受け止めて喜んでくれるかどうかを自らに問いかけることの方が大事なのではないかと思います。

もっともっと子どもを褒める。そして、パパとママも労り愛、褒め合っているかどうかを問う節目の日が「こどもの日」なのではないでしょうか。

平成29年度、こどもの日を中心とする「児童福祉月間」の標語が決まりました。全国から3,330作品の応募があり、入選9作品の中に、

こどもたち 幸せはこぶ 笑い声

(千葉県 佐野陽妃さん 9才作) が目に止まりました。

「子どもの笑顔は地球の力です。」という松の実の確信は、今後も揺れることはありません。

こどもが自ら育ち、共に育ちあう力を信じて、子どもの笑顔と笑い声が溢れる5月になるように

私から 広げていこう 笑顔の輪

(新潟県 渡辺圭亮さん 14才作) を心掛けようではありませんか。

園長 福田孝子